

第103年会, 1983, 4, 東京.

9) 横澤隆子: アデニンによる腎不全病態モデル動物の作製と和漢薬効果の検討. 日本薬学会北陸支部第60回研究奨励講演, 1983, 7, 富山.

10) 横澤隆子, 鄭平東, 大浦彦吉, 深瀬真之, 小泉富美朝: アデニン投与による実験的腎不全モデル動物の作製. 第37回日本栄養食糧学会総会, 1983, 5, 大阪.

11) 横澤隆子, 鄭平東, 大浦彦吉, 西岡五夫: 実験的腎不全モデル動物の作製とその改善作用. 日本生化学会第56回大会, 1983, 9, 福岡.

12) 小林妙子, 横澤隆子, 大浦彦吉, 川島祐次: 薬用人参 ginsenoside の糖および脂質代謝に対する影響. 日本生化学会第56回大会, 1983, 9, 福岡.

13) 長沢哲郎, 大浦彦吉, 野中源一郎, 西岡五夫: Rhatannin の glucagon 作用の増強活性について. 日本生化学会第56回大会, 1983, 9, 福岡.

14) 横澤隆子, 鄭平東, 大浦彦吉, 西岡五夫: 実験的腎不全動物に対する大黃エキスの効果. 第17回和漢薬シンポジウム, 1983, 9, 富山.

15) 三瀧忠道, 井澤敬子, 横澤隆子, 大浦彦吉, 山本昌弘, 川島祐次: 薬用人参サポニン (Ginsenoside) のコレステロール代謝改善作用について. 第17回和漢薬シンポジウム, 1983, 9, 富山.

16) 横澤隆子, 鄭平東, 大浦彦吉, 小泉富美朝: アデニン投与による実験的腎不全ラットの作製. 第26回日本腎臓学会総会, 1983, 10, 京都.

17) 横澤隆子, 大浦彦吉, 小泉富美朝: アデニン投与による実験的腎不全ラットの作製. 疾患モデル動物の開発と利用研究会, 1983, 11, 大阪.

18) 矢原正治, 里城まゆみ, 西岡五夫, 長澤哲郎, 大浦彦吉: 黄連のフェノールについて(1). 日本生薬学会第30年会, 1983, 10, 徳島.

19) 日合奨, 横山弘臣, 大浦彦吉, 笹山雄一, 小黒千足: サポニンその他薬物による副腎肥大作用と萎縮防止作用の機序. 日本薬学会第103年会, 1983, 4, 東京.

## 病 態 生 化 学

教 授 荻 田 善 一  
助 教 授 中 嶋 松 一  
助 手 丸 山 由 紀 子  
文部技官 林 和 子

### ◆ 著 書

1) 荻田善一: 哺乳動物の発生, 「分子生物学読

本」渡辺 格, 松原謙一編, 187-192, 日本評論社, 1983.

2) 中嶋松一: 免疫グロブリン遺伝子, 「免疫学」小山, 大沢編, 35-55, 南江堂, 1983.

3) 病態生化学部門一同: 「先天性代謝異常症スクリーニングマニュアル I」, 1-74, 1983.

4) 熊谷 朗, 荻田善一, 安倍政利, 金谷高志, 岩橋寛治, 奥井信治: 「証と方剤ハンドブック」熊谷 朗, 荻田善一監修 医歯薬出版, 1983.

### ◆ 原 著

1) Yamazaki H., Nishiguchi K., Miyamoto R., Ogita, Z.-I. and Nakanishi S.: Activity and Electrophoretic profiles of liver aldehyde dehydrogenases from mice of inbred strains with different alcohol preference. *Int. J. Biochem.* **15**: 179-184, 1983.

2) Nakashima S., Kamikawa H. and Ogita Z.-I.: Isoelectric focusing of the inbred mouse antibody to bacterial  $\alpha$ -amylase. *J. Biochem.* **94**: 1723-1730, 1983.

3) 上村 清, 丸山由紀子: 数種殺虫剤に対するコガタイエカ幼虫の感受性について. 衛生動物 **34**: 33-37, 1983.

4) 磯部正治, 荻田善一: 二次元電気泳動法によるマウス睪由来プロテアーゼ・ザイモーゲンの等電点決定法. 生物物理化学 **27**: 341-345, 1983

### ◆ 総 説

1) 荻田善一: 薬理作用と遺伝. 日本医事新報 **3055**: 142-143, 1983.

2) 久保喜一, 荻田善一: ジャコウ類似生薬の開発研究. 現代東洋医学 **4**: 81-84, 1983.

3) 荻田善一: 微小試料による遺伝疾患の解析と診断. 今月のニュードラッグ **12**: 32-44, 1983.

### ◆ そ の 他

1) 柴田 太, 荻田善一: 修飾ゼラチンゲルによる電気浸透現象の解析. 生物物理化学 **27**: 52, 1983.

2) 中嶋松一, 上川 浩, 荻田善一: 近交系マウス抗 B  $\alpha$ A 抗体の等電点電気泳動. 生化学 **55**: 700, 1983.

3) 磯部正治, 荻田善一: 二次元電気泳動法によるマウス睪由来プロテアーゼ・ザイモーゲンの等電点決定法. 生化学 **55**: 1045, 1983.

4) 太口育彦, 荻田善一: アルブミン産生細胞におよぼす異種細胞質の影響. 生化学 **55**: 948, 1983.

5) 丸山由紀子, 荻田善一: 薬剤抵抗性獲得機構

の電気泳動法的解析. 生物物理化学 27: 276, 1983.

6) 桃井啓子, 荻田善一: 発生遺伝学の電気泳動法による展開. 生物物理化学 27: 283, 1983.

7) ハムディ・タイエ, 富田 新, 荻田善一: 電気泳動法による薬理効果の解析. 生物物理化学 27: 258, 1983.

#### ◆ 学会報告

1) 堀越葉子, 荻田善一, 井上恭一, 佐々木 博: 組織内SODの電気泳動的解析法. 第20回日本臨床代謝学会総会, 1983, 2, 東京.

2) 井上恭一, 康山俊学, 古谷田裕久, 佐々木 博, 堀越葉子, 荻田善一: 肝疾患における肝組織内SODの電気泳動的解析. 第20回日本臨床代謝学会総会, 1983, 2, 東京.

3) 坂本栄子, 荻田善一: 姉妹染色分染法による人参証の判定. 日本薬学会第103年会, 1983, 4, 東京.

4) 桃井啓子, 荻田善一: ウサギにおけるアトロピン応答性の薬理遺伝学的研究. 日本薬学会第103年会, 1983, 4, 東京.

5) 荻田善一, 山村研一, 林 和子, 磯部正治, 井上恭一: 微小試料による遺伝疾患の解析と診断. 第21回日本医学会総会, 1983, 4, 大阪.

6) 柴田 太, 荻田善一: 修飾ゼラチンゲルによる電気浸透現象の解析. 第33回電気泳動学会春季大会, 1983, 5, 東京.

7) Isobe M. and Ogita Z.-I.: Electrophoretic analysis of pancreatic proteases and zymogen activating factors in mice. Electrophoresis '83, 1983, 5, Tokyo.

8) Maruyama Y. and Kamimura K.: Electrophoretic analysis of esterase isozymes in organophosphate resistant mosquitoes, *Culex pipiens*. Electrophoresis '83, 1983, 5, Tokyo.

9) 磯部正治, 桃井啓子, 久村富徳, 荻田善一: セルソーターによるヒト染色体の分取とゲノムDNA. 第3回富山カンファレンス, 1983, 8, 富山.

10) 森田瑞枝, 稲垣克彦, 金谷高志, 荻田善一: 関節リウマチ患者における証の分布. 第17回和漢薬シンポジウム, 1983, 9, 富山.

11) 中嶋松一, 上川 浩, 荻田善一: 近交系マウス抗B $\alpha$ A抗体の等電点電気泳動. 第56回日本生化学会, 1983, 9-10, 福岡.

12) 磯部正治, 荻田善一: 二次元電気泳動法によるマウス脾由来プロテアーゼ・ザイモージェンの等電

点決定法. 第56回日本生化学会, 1983, 9-10, 福岡.

13) 太口育彦, 荻田善一: アルブミン産生細胞におよぼす異種細胞質の影響. 第56回日本生化学会, 1983, 9-10, 福岡.

14) 丸山由紀子, 荻田善一: 薬剤抵抗性獲得機構の電気泳動法的解析. 第34回電気泳動学会大会, 1983, 10, 浜松.

15) 桃井啓子, 荻田善一: 発生遺伝学の電気泳動法による展開. 第34回電気泳動学会大会, 1983, 10, 浜松.

16) ハムディ・タイエ, 富田 新, 荻田善一: 電気泳動法による薬理効果の解析. 第34回電気泳動学会大会, 1983, 10, 浜松.

17) 桃井啓子, 磯部正治, 荻田善一: セルソーターによる染色体の分画. 第28回日本人類遺伝学会大会, 1983, 11, 宝塚.

18) 荻田善一: 人類遺伝学の発生工学的アプローチ. 第28回日本人類遺伝学会大会シンポジウム, 1983, 11, 宝塚.

## 化 学 応 用

教 授	菊 池	徹
助 教 授	金 岡	又 雄
助 手	門 田	重 利
技 官	松 田	暁 子

#### ◆ 原 著

1) Kikuchi T., Mori Y., Yokoi T., Nakazawa S., Kuroda H., Masada Y., Kitamura K. and Kuriyama K.: Structure and Absolute Configuration of Sargatriol, a New Isoprenoid Chromenol from a Brown Alga, *Sargassum tortile* C. AGARDH. Chem. Pharm. Bull. 31: 106-113, 1983.

2) Kikuchi T., Kadota S., Suehara H., Nishi A., Tsubaki K., Yano H. and Harimaya K.: Odorous Metabolites of Fungi, *Chaetomium globosum* KINZE ex FR. and *Botrytis cinerea* PERS. ex FR., and a Blue-green Alga, *Phormidium tenue* (MENEHINI) GOMONT. Chem. Pharm. Bull. 31: 659-663, 1983.

3) Kikuchi T., Kadota S., Yanada K., Tanaka K., Watanabe K., Yoshizaki M., Yokoi T. and Shingu T.: Isolation and Structure of Magnosalin and Magnoshinin, New Neolignans